

## 令和6年度 努力点推進の基本方針

### 1 研究主題

#### 自律して学び続ける子どもの育成

～自分に合った方法や進度で課題を解決しよう（1年目）～

### 2 研究のねらい

本校では、令和3年度からの3年間、ICTを活用した授業づくりについて研究を進めてきた。昨年度に関しては、学習のねらいに迫ることに焦点を当て、研究に取り組んだ。例えば、動画で自分の動きと模範の動きを比較することで改善点を見付ける、思考ツールを使って仲間分けをするなど、ICTを効果的に活用することで、多くの子どもがねらいに迫る姿が見られた。しかし、学習のねらいに迫ることができない子どもも見られた。これは、全ての子どもに学習のねらいが達成できるように支援する「指導の個別化」や、子どもたちが自分の特性に応じて学べるように支援する「学習の個性化」が十分ではなかったことが原因だと考える。

令和5年度9月「ナゴヤ学びのコンパス」には、「指導の個別化」や「学習の個性化」を進めながら、ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける子どもを育成することが記載されている。「ゆるやかな協働性」とは、子どもたちが必要に応じて、仲間や大人の力を借りたり、人に自分の力を貸したりすることを意味する。分からないことがあれば聞く、困っている子がいたら寄り添う、自力解決したい子は見守るなど、「ゆるやかな協働性」に支えられた学びの実現を目指している。「自律して学び続ける子ども」とは、「興味・関心等に応じて、やりたいことを見付けて取り組む」「学ぶペースや方法、内容などを自己選択、自己決定しながら学ぶ」「学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける」と定義されている。

本校の実態や社会の要請から、今年度から「自律して学び続ける子どもの育成」を主題として研究を進めたい。研究初年度となる今年度は、まずは、学ぶペース、方法、内容などを子どもが自己選択、自己決定することができる力を身に付けさせたい。そこで「自分に合った方法や進度で課題を解決しよう」を副題とし、実践を行う。